

# 隣接の清水町住民異議

## 「新設しない」計画暗礁に 40年前覚書

沼津市が2020年度の供用開始を目指す新ごみ中間処理施設の建設計画が暗礁に乗り上げている。建設予定地は同市上香貫の現施設敷地内。隣接する清水町外原区の住民から40年前に沼津市長と外原区長が交わした「施設の増設はしない」という覚書を根拠に計画の見直しを求める声が上がっているからだ。清水町の一般ごみも受け入れている施設だけに、町も住民に理解を求めている。

# 沼津市ごみ処理施設建て替え

沼津市新ごみ中間処理施設をめぐる経過	
1974年	沼津市長と外原区長が覚書を交わす
76年	現施設の稼働開始
2006年	合併協議の決裂を受け、沼津市が清水町のごみの受け入れを停止
08年	沼津市が清水町のごみの受け入れ再開
09年	沼津市が清水町に施設建て替え計画への協力を求め、町は協力を約束。外原区は計画に反対
11年	沼津市が土地選定の経緯を説明 沼津市長が外原区民に正式に謝罪し、現建設地での建て替えに理解を求める
13年	沼津市が新施設の基本構想策定に向けた検討を開始

現施設は1976年から稼働。施設の老朽化が進み、耐震強度不足が問題になっている。市は新設場所を検討し、現施設以外に適地がないと判断

した。2009年には市の方針を町に伝えた。

ただ、1974年、沼津市長と外原区長が「将来一切増設、新設をしない」と覚書を交わした経緯がある。栗原裕康市長は覚書を守れなかったことを認め、2011年に正式に外原区住民に謝罪し、建て替えの意向を伝えた。

これに対して、外原区住民は施設周囲には中学校や住宅地があり、健康被害への懸念なども挙げ

て、覚書を守るよう訴えている。

自前のごみ処理施設がない清水町は、沼津市との合併協議のもつれで市からごみ・し尿処理受託を打ち切られ、06年から三島市と函南町にごみ処理を委託する事態も起きた。清水町は過去の経緯もあって新施設建設への協力を表明し、町内17区のうち15区の区長が早期建設を町に要望している。こうした中、市は13年度中に、新施設の基本構想をまとめる。

外原区の鈴木隆雄区長は「覚書は今も有効だ。なぜまた同じ場所に建てるのか。経緯をしっかりと説明するべきだ」と訴える。山本博保町長は沼津市に協力する姿勢を示し、「住民の理解を得られるよう、お願いを続けていく」と話している。

# スイーツ列車運行

天竜川水系  
自主節水へ

間ダムの貯水量が低下しているため、冬場の自主節水は2年ぶり。